

公益活動報告書（市民活動実績報告書）（令和5年度分）

（宛先）岡崎市長

令和6年4月22日

団体名 特定非営利活動法人こえもじ

代表者 亀井祥子

構成員 18人（※令和6年4月1日時点の構成員数）

団体の目的：団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

広く一般市民を対象とし、音声認識技術の活用を社会へ促す普及啓発に関する事業を行い、人々の生活の質の向上と世代や国籍、障害を越えて人々の交流を促し、相互理解を深め、誰もが社会の一員として生き生きと安心して暮らせる地域共生社会実現と福祉の推進に寄与することを目的としています。

私達の団体が掲げる目的を実現するための活動を、以下の項目に従って報告します。

なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■ 1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどんな活動をしましたか（公益活動に限る）。

活動日 又は期間	場 所	公益 ^{*1} を受けるのは 誰（何）か	受益者数		活 動 内 容	公益を受けるものに どのような効果があったか
			会員以外	会員 ^{*2}		
R5・5/13	むらさきかん	市民来場者	80名	6名	「むらさきかんフェスタ」へブース出展し、音声認識アプリの実演と聞こえない人とコミュニケーション体験。	参加者は、文字表示を利用して、聞こえない人とコミュニケーションがとれ福祉の推進に寄与できた。
6/26	岡崎市役所	市会議員 市職員	40名	7名	市会議員対象の講座。利用者の講話、音声認識アプリの使い方と聴覚障害者のコミュニケーション方法を伝えた。	議員は利用者の話しから相互理解を深め、自身で文字表示を体験したことで地域共生社会と福祉の推進に寄与すると認識できた。市民に必要な条例制定の理解へも繋がった。
8/6	友愛の家	市民	50名	6名	「聞こえない悩み解決へ in おかざき」市民講座へ文字表示した。	聴覚障害者や家族が文字表示から内容を理解し多くを学ぶことができ、福祉の推進に寄与することができた。
8/26	むらさきかん	市民	40名	4名	「活躍人！交流会～SDGs事例発表～」団体でSDGs事例発表をした。会場全体の文字表示および、当事者はGWへ参加した。	事例発表で地域共生社会での音声認識の文字表示の必要性を伝えることで賛同された団体と交渉中である。地域共生社会の実現にむけての一步となった。
8/26	安城市	市民来場者	100名	4名	「安城わくわくフェスタ」ブース出展し、音声認識アプリの実演と聞こえない人とコミュニケーション体験。	参加された方は、文字表示を利用して、実際にコミュニケーションが取れた。福祉の推進に寄与することができた。
10/1	豊田市	市民来場者	100名	10名	「WE LOVEとよた」フェスタへ参加。 ①舞台上の全体文字表示②ブースで文字表示と啓発・交流・説明。	音声認識・要約筆記・手話の団体で固め、必要なコミュニケーション方法を学び使用され多くの交流が生まれた。地域共生社会の実現と福祉の推進に寄与することができた。
10/2	市役所 福社会館	市民・関係者等	100名	6名	QURUWAシンポジウムの全体文字表示。	市民含め多くの企業・行政関係者へ音声認識による会場全体への文字表示を通して、まちづくりには文字表示が必要という地域共生社会の実現ができた。

10/12・13	豊田市	関係者等	300名	12名	「全国地域共生社会サミット」①全体会および分科会への文字表示②ブース出展	参加した全国の市・社協等の関心が高く、地元への持ち帰って導入・利用の話しまでできたことで地域共生社会の実現と福祉の推進へ繋げることができた。
11/29	よりなん	地元の方々	50名	3名	「地域とつながる協働交流会」へ文字表示。	全体文字表示があることで多種多様な人の社会参加ができていることを知り、地元で共生社会の実現をされた。
R6・1/27	よりなん	関係者等	50名	3名	「町内会サミット」	全体文字表示があることで多種多様な人の社会参加ができていることを知り、地元で共生社会の実現をされた。
2/8	豊田市	関係者等	100名	3名	「未来共創カフェ」①2講演に文字表示②当事者参加で交流	企業、事業者、公的機関の方々が、出会い、交流する場で相互理解を深めることができた。
2/23	りぶら	市民来場者	500名	7名	「みんなのおまつり」①ホールイベント文字表示②ブース啓発活動	①コンサート関係者、司会者、講師、音響担当等関係者へ今後の文字表示へ繋げることができた。
2/25	豊田市	児童保護者	8名	6名	「とよたSDGsミライ大学プレ講座」講座担当。	豊田市が企画したこども向けの講座へ企業・市民活動団体が講師を務めた。子どもたちと社会の一員として地域共生社会の実現が出た。

※1 **公益** 市に登録した分野での活動で、広く市民社会一般にもたらされる利益（公益が団体や、その構成員や会員に対してもたらされる活動は、公益活動には当たりません。）

※2 **会員** 構成員であるなしに関わらず、公益の提供者として会の活動に参加する人
 ☆記載欄が足りない場合は、別紙を添付する形でも構いません。

■2 前項1に基づき、活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください（数字に○をつけてください）

高い ← (5) 4 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください

岡崎市内で以前から難聴・中途失聴者支援に取り組んでいる当事者団体や要約筆記支援サークルの関心が高まり、主催する行事に要約筆記と音声認識による文字表示を実施し、環境整備の範囲が広くなり好評だった。また費用面から市派遣制度が利用できない多様な人々が集まる行事に文字表示の相談や依頼が多くあるなど、岡崎市内の他団体の活動に多くの影響があった。

裏面の自己診断チェックリストをご確認ください。